

令和7年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

日 時	令和7年11月20日（木） 9時30分～11時00分
場 所	南国市上下水道局 2階会議室
出席者	南国市長 平山 耕三 南国市教育委員会 教育長 竹内 信人 職務代理 上岡 哲朗 教育委員 細川 善久 教育委員 楠瀬 公美 教育委員 浅野 聡子

1 開会

開会の挨拶（平山市長）

2 議事

【議事1】南国市教育委員会の取組について①～⑩

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【細川委員】

先程、教育長と教育研究所長からも説明がありました、社会科副読本についてのお願いをしたいと思っている。小学校の社会科は、小学校3年生は主に自分達の住んでいる地域のことを、そして4年生は高知県のことを、5年生になると日本のことを、そして6年生は日本の歴史や政治のこと、というように学習内容が次第に広がるようになっている。そうした中で、小学校3年生の社会科についての教科書は当然あるのだが、その教科書の内容というのは全国を網羅した内容であり、南国市に特化しているという訳ではなく、NACOバスなどは当然教科書には出てこないわけである。なので、自分たちの住んでいる地域のことを学ぶためには、南国市のことを書いてある副読本が必要であり、今、市長の前に置いてある副読本のように、各市町村でそれぞれが工夫して編集・更新していく必要がある。そしてこの副読本によって、南国市の産業、交通、様々な公的サービスなど、自分たちが住んでいる地域のことを学ぶ過程で、南国市に愛着を持ってもらう、保護者を始めとする周りの人に感謝する、そういった内面的な部分を育てていくというのが本来の狙いになると思われる。そして、そのためには地域の実情に沿った内容にする必要があり、自分達の地域のことが詳しく出ている副読本が大事である。教育長と教育研究所長からも説明があったので必要性についての説明は省略するが、副読本を編集・更新していくための体制について、是非とも検討していただけたらと思う。

⇒【楠瀬委員】

細川委員と同じく副読本の大切さについての話だが、私の子供が先日家に帰ってきた際に『八坂神社のお祭りに行きたい』と言ったので、『そしたら夏に行こうね』と返事をしたのだが、子供からは『八坂神社のお祭りは秋にあるらしいよ』と言われた。ここまでの話で八坂神社って聞くところの都道府県の話だと市長は思われるか。

⇒【平山市長】

どこの都道府県というか南国市の話だと思いますが。

⇒【楠瀬委員】

私は高知市出身なので八坂神社に馴染みがなく、八坂神社と聞くと京都だと思い、子供は京都に連れて行って欲しいのだなと思ったのだが、市長が答えてくれたとおり南国市の話であった。子

令和7年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

供になぜその八坂神社の話を知っているのか聞いたところ、このテスト用紙の問題文に南国市の八坂神社のお祭りというのが載っていた。このテストだが、私は半分も分からなかったが子供はテストで満点を取っていたので、これはやはり副読本で学んだ成果であり、学ぶことで南国市に愛着を持つようになるのだなということが分かり、とても大事な勉強をしているのだと感じた。

⇒【平山市長】

大変有難い、貴重な意見を有難うございます。八坂神社は南国市民でなければ分からないし、南国市民でもその地域に住んでいなければ分からないかもしれないが、恐らく長岡小学校区の八坂神社の話だと思われま。

⇒【楠瀬委員】

お見込みのとおりで、このテストには載っていないが、子供は南国市に無形文化財に指定されていることまで知っていた。

⇒【平山市長】

無形文化財に指定されているのは三番叟の事だと思われる。私が長岡小学校区に住んでいるので知っているが、そうでない方は南国市に住んでいても知らないのではないかとと思われる。副読本に載ることで南国市に伝わっている文化を、地域に住んでいる方以外にも知ってもらえるのは嬉しく思う。

⇒【楠瀬委員】

子供には『300年も前から続いているんだよ』と言われたが、300年も前からある伝統行事なのに自分は知らなかった。このように生活に密着したことを学んでいるなど、たくさんの人が関わって大事に育てられていると、この社会科だけでもできているのだと感じた。

⇒【平山市長】

このような地域独特の歴史や文化というものは、地域のことを学ぶ中で皆さんに知っていただき、南国市を誇りに思っていたきたいと思うので、そのためにも副読本は必要な教材であると思っている。この副読本をどのように更新していくのかという議論は、昨年もさせていただいたと思うが、引き続き更新していけるように取り組むのは当然のことだと思っている。現在の教員OB 2名の体制についてですが、非常に費用対効果が高いことが実証されており、できる限り長く協力していただけたらと思うと同時に、以降の体制も含めて社会科副読本の編集・改定は続けていく方向で考えていきたいと思う。

【浅野委員】

私からは最初に説明があった特別支援教育について少しお話させていただきたいと思う。今回、以前に予算を割いていただいて特別支援員の配置を増強していただいた成果が、如実に出ているなど感じている。数字上でもそうだが、学校現場の声、校長先生方の声を聞いても、それは間違いないだろうと思っている。しかし、私が一般市民であればこの成果を絶対知らないと思われる。南国市はここがすごいと今回の件で改めて思ったのが、行政と学校現場の連携力である。トップダウンだけでなく現場の声も反映しながら必要な人員を配置するなど、必要な予算を配分することですぐに成果を出していく連携力には本当に感心している。部活動の地域展開についてはまほろばクラブの協力が不可欠ではあるが、支援学級の件も含めて、意図したものではないかもしれないが国が求める以上の成果を出せており、それを表す結果がかなり鮮明に出てきている。しかし、私が一般市民であればこの成果を知り得ることはないと思うので、大手を振って市民に伝えたいと思っており、誇るべきことだとも思っている。市長から冒頭に若年人口が増加しているという発言があったが、まさにその若年層の生活の中心には子供達の教育・子育てが確実にあると思っており、その子供達が南国市でどう過ごしていくのかが、最終的に南国市に住み続けたい、帰って来たい、次の世代もここで育みたいという思いに繋がるのではないかと考えている。先程のデータにもありましたが、令和5年から7年にかけて支援が必要な子供の数が50名増えているのが現状である。全国で見ると子供の人数が減少している中でこの増加という課題感はずごく鮮

令和7年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

明であり、支援を必要とする子供達が決して取りこぼされないようなサポートを今後も継続していく必要がある。そして、その体制を継続していくための人員強化をぜひお願いしたいと思っている。これは子供のサポートだけではなく、教員の方々の心理的サポートにも繋がると強く思っている。支援が必要な子供が増えていることへの対応として人員強化を行うことで、教員の方々の負担を軽減して誰一人倒れない体制を構築し、南国市の強みである教育を引き続き強化していただきたいと思っている。以上である。

⇒【平山市長】

2年間で支援が必要な子供が50名増えている件についてご意見いただいたが、支援員の配置強化大変大切なことであり意義があるということである。この件については昨年からご要望頂いていることであり、来年度の体制づくりということで各校への配置案も出していたところである。現在、南国市の財政状況は非常に厳しいところではあるが、その状況も踏まえて教育委員会でも検討していただいたと思うので、それでもなお支援員の配置を強化したいという教育委員会の思いというのは汲んでいきたいと思っている。浅野委員の意見は本当に的を得たご意見であり、本当にそのとおりでであると思っている。ご意見に沿うべく、できるだけ今後の予算措置の際も対応していきたいと思う。

【上岡職務代理】

先ず、支援員の配置なども含めて、予算面で配慮いただいたことに感謝申し上げます。先程の浅野委員の話にも関連するが、子供達の補助をするとか支援をするというのは、予算と人員さえあればこの自治体でもできることだが、南国市は発生した事案に対応するだけでなく、先を見据えた対応ができていくのが強みではないかと考えている。特別支援教育を必要とする子供の人数、不登校の子供の人数、そしていじめ・いじめ疑いの認知件数など、どうしてもマイナスに取られることが多いのだが、私が見る限り南国市はただ単にマイナスと捉えるだけではなく、その課題が次第に解消されていく未来を見据えるためのステップとしても捉えているのではないかと考えている。例えば、いじめ・いじめ疑いの認知件数を単にマイナスと捉え、いじめ・いじめ疑いの認知件数を減らしていきましようと呼び掛けた場合、隠蔽まではないと思うが自分の勘違いかもしれない、考えすぎかもしれないといじめ・いじめ疑いの認知に消極的になってしまう可能性があり、その結果いじめ・いじめ疑いの認知件数は減ったがいじめの重大事態に発展する事案が増えたでは本末転倒である。それよりも、いじめ・いじめ疑いの認知件数が増えたとしても、重大事態に発展する前の初期段階で対応できているとプラスの方向に捉えることができれば、現場の教員の方々も積極的に対処できるように思う。このように、マイナスをプラスと捉えることができる事例ばかりではないかもしれないが、マイナス面ばかりに集中するとその課題を上手く解消するための道筋を見失うかもしれないので、プラスの方向に考えてくれる方がいれば、教員の方々もプラスの方向に向かった取組に注力できると思う。そうすることで、いじめの重大事態に発展する事案が減る、不登校の子供が減る、そして南国市の各校の子供たちに勉強に限らずいろんな力を身につける、という様な結果に繋がるのだろうと思われる。全国的に子供の人数が減少している状況だが、南国市はそうではないというところを強みと捉えて、良い教育・支援体制が構築できているということアピールしていけば、他市町村から子育て世代を呼び込むことができ、人口減少の勢いに歯止めをかけることができるのではないかと考えている。そして、南国市の教育で育った子供達に力がつけば、将来の南国市自体の力も増していくのではないかと考えている。私が学校の教員をしていた頃に、子供たちと話をするとつい『今』のことを話してしまいがちだが、学校で大事なのは『今』ではなくて10年、20年先について話をすることだと思っている。私が50歳の時に子供たちと30年先の話をすると、その頃には80歳になるので私はこの世にいないかもしれないと考えながら話をしていたが、そんな時に教育や子育ての環境もそうですが、子供達に南国市に住み続けたい、いずれは戻って来たいと思ってもらえる魅力ある南国市であれば、南国市で生活する『未来』について話ができる機会も増えると思うので、そうであればとても嬉

令和7年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

しく思う。もちろん、何をするにしても予算が必要であり、南国市の財政状況が厳しいのも承知しているが、単に今の問題を解決する為ではなく、将来への投資だと考えて、教育関係に限らず様々な問題解決に取り組んでいただけたらと思う。

⇒【平山市長】

将来への投資ということで、今の課題というのは実際にこの数字からも読み取ることができるが、この課題に随時対応していくことで、将来につながる子供たちの成長が見えるのではないかと、南国市自体の将来につながっていくのではないかと、といった別の視点でお話をいただいたように思う。この件については、オブザーバーとして財政課長も出席しているので一緒に考えてくれるのではないかと、浅野委員のご意見にもお答えしたとおりに検討させていただく。

【平山市長】

『ドリームトーク in 議会』という取り組みも始めて実施したが、委員の皆様も傍聴してくださり、良かったとのご意見を複数人の方からいただいた。これについては、議会の方からも様々なご意見をいただくことになると思われる。

⇒【楠瀬委員】

私も傍聴したがとても良かった。子供達も南国市の未来のことを良く考えてくれているな、と感じる非常に素晴らしい取り組みだった。

⇒【平山市長】

議場で質問をするという経験は、子供達の新たな視野を広げるという意味では良い経験になると思われる。昨年度まではドリームトークということで各学校に毎年足を運んでおり、その場合は各校で様々な意見を直接頂き、またざくばらんに会話することもできたが、今回は議場で質問するという形であったため、どうしても形式に従って質疑応答することになるので、昨年度までのようにざくばらんに会話することはできなかった。どちらも子供達には良い経験になると思うが、両方実施するのは関係する方々の負担が大きくなるので、何年に一回または隔年で実施する方向で検討されるのではないかと、議会の意見も聞きながら検討して行ければと思う。

【議事1】南国市教育委員会の取組について⑩ ※非公開

3 閉会

以上